カリオン

Red Cross Society Himeji School Of Nursing | carillon

Vol. 40
2020.2

TOPIC ナイチンゲール記章の寄贈に寄せて

記章を戴いてもう17年になります。その間、この記章の保存について考え、相談もかけ続けてきましたが、結論は得られませんでした。そんな中、昨年夏、入院という私の生活の根底に限界が来てしまいました。ベッドの上で気になるのはやはり記章のことでした。

そんな日々甦った記憶が北海道知床の鮭の遡上の光景でした。帰巣本能という思いが強く私を動かしはじめ、生活の場はもちろんですが、ナイチンゲール記章も私の母校に帰りたい、お返しするのが当然だと思うようになりました。早速お伺いし、快諾をいただき、先輩方の膝下に加えていただきました。「お帰り」と言ってくださっているようにさえ思えます。有り難うございました。この記章が知床の川の岩石のように、次の世代を育み、新しい看護の帰巣の目標になればと願うばかりです。

2月1日に95歳を迎えて
（第44回生:髙橋 令子）

第39回受章
（平成15年）

行事予定（令和2年2月～5月）

2月
12日（水）～クラスII　領域別実習再開
16日（日）　クラスIII　第109回看護師国家試験

3月
4日（水）　卒業を祝う会
6日（金）　クラスIII　卒業式
19日（木）　クラスIII　国家試験合格発表
20日（金）～4月3日（金）　春季休業

4月
6日（月）　新年度始業
7日（火）　クラスI　入学式
10日（金）　新入生歓迎会
29日（水）～5月6日（水）　保健週間

5月
12日（火）　ナイチンゲール祭
中旬　クラスI　支部訪問
31日（日）　オープンキャンパス

4月～6月　クラスI　基礎看護学実習I

姫路赤十字看護専門学校 教育理念

本校は、赤十字の基本理念「人道」を看護実践で具現化するという赤十字の理念のもとに活動する看護師を育成することを使命とする。看護は人間の健康生活にかかわるケアリングである。本校は反省的実践家を育てるためにリフレクションを用いる。学生と教員にケアリングが起こる、このような学習過程を教育の基調とする。

【教育目標】

1）人道（ヒューマニティ）を基盤とする赤十字の思想に基づき、人間の生命と健康を守り、苦痛を予防・軽減し、尊厳を確保できる豊かな人間性を養う。

2）人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として、幅広く理解する能力を養う。

3）人々の健康と生活を、自然・社会・文化的環境とダイナミックな相互作用等の観点から理解する能力を養う。

4）赤十字の基本原則を基盤とする看護専門職業人としての職業倫理観をもち、看護を実践できるとともに、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。

5）人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。

6）健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、終末期など、健康や障害の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

7）看護の実践は「安全」で「安楽」を第一義とし、医療事故を未然に防止できる能力を養う。

8）保健・医療・福祉制度と他業種の役割を理解し、チーム医療を実践するとともに、人々が社会的資源を活用できるよう、それらを調整するための基礎的能力を養う。

9）赤十字の諸活動に関心を持ち、将来、赤十字の理念のもとに活動する看護師として国内外で活躍できる基礎的能力を養う。

令和元年度

戴帽式

令和元年10月25日(金)

宣誓

私たち第121回生は、本日戴帽式を迎えることができ、大変嬉しく思います。また、看護師を目指すという決意がさらに強くなり、身の引き締まる思いです。これからも、仲間と喜びや苦しみを分かち合い支え合いながら、私たちを見守り導いてくださる先生方、先輩方、医療関係者、支えてくれる家族、すべての方への感謝の気持ちを忘れず、患者さんやそのご家族の心に寄り添い、その人らしさを尊重する看護師を目指します。

(戴帽生代表)

戴帽式を終えて

戴帽式は厳かな雰囲気で緊張しましたが、これから始まる実習への期待が高まりました。未熟な私たちですが、周囲の方への感謝の気持ちを忘れず、クラスの仲間と支えあいながら学びを深めていきたいです。

(クラスⅠ)

戴帽を祝う会

1年生が、ナースキャップを戴いた嬉しそうな様子と引き締まった表情を見て、昨年自分達が戴いた時のことを思い出しました。同じ夢へ向かう仲間として一緒に頑張っていこうという思いを込めた歌「栄光の架け橋」やプレゼントを贈り、1年生のみんなが喜んでくれている姿を見ることができ、とても嬉しかったです。これからの学校生活も学年の垣根を超え、支え合いながら夢へ一歩ずつ近づくことが出来るように頑張っていきたいです。

(クラスⅡ)

講演会

小児看護専門看護師として大切にしていること

～看護学生に期待すること～

講師:大阪府立大学准教授
長田 暁子先生

今回の講演で一番印象に残っているのは、子どもを亡くした両親への援助として、ゆっくりになっても並走していくことが大切であるということです。看護者の前向きに元気になってもらいたいという気持ちが先走り、子どもを亡くした両親の気持ちを置き去りにせず、側にいて見守る姿勢が大切だと学びました。小児看護領域の実践的なお話を聞かせていただき、とても貴重な体験となりました。

(クラスⅡ)

＋奉仕団活動＋

献血班

クリスマスキャンペーン

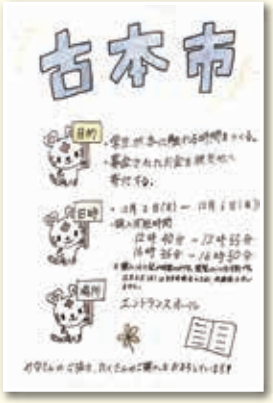
12月8日(日) イオンモール姫路リバーシティ
12月22日(日) JR姫路駅前

クリスマスキャンペーンに参加し、献血に協力していただけるように呼びかけを行いました。人通りが多く、高校生や若い方などを中心に呼びかけを行うことができました。献血終了後に学生の手作りメッセージカードを渡すと「すごくかわいい。ありがとう。」と喜ばれ、すごく嬉しかったです。また、学生も活動の合間に献血を行いました。

2日間とも多くの方々に献血の協力をしていただきました。今後も献血を知ってもらえるように呼びかけていきたいと思います。

(クラスⅡ)

院内図書班



入院をされている患者さんの病室を訪問し、本の貸し出しを行っています。借りて下さった患者さんからお礼のお手紙をいただくこともあり私達の活動により入院生活の中で少しでも楽しんでいただけていると実感することができました。また、古くなった本を学校内で売る古本市も行っています。古本市で集まったお金は日本赤十字社が募集している直近の災害義援金として送っています。今後も活動を続け、患者さんに楽しい時間を過ごしていただけるように頑張りたいです。

(クラスⅡ)

小児病棟訪問班

クリスマス会

クリスマス会を保育所と小児病棟で行いました。準備期間も短く、1年生主体になってから初めての会だったので、あわただしかったのですが、みんなで協力してとても良い会にすることができました。会に来てくれた子どもたちの人形劇に集中する姿やお土産のツリーを嬉しそうに振って楽しんでくれる姿に、私たちも元気をもらいました。そんな子どもたちのおかげで、今年の締めくくりに素敵な会を開けてとても嬉しかったです。来年も楽しみにしてくれている子どもたちのためにアイディアを振り絞って更に素敵な会を行えるように頑張ります！

(クラスⅠ)

球技大会

11月22日（金）に球技大会を行いました。球技大会委員として4ヶ月前から、学年を問わず交流を通して、みんなが楽しめるような企画を考えていきました。当日も無事に終わり、みんなから「楽しかった！」と言ってもらうこともでき、ホッとしています。反省点もたくさんありますが、最後まで頑張ってよかったと改めて感じました。私自身も体を動かすことが大好きで、ドッジボールをしてリフレッシュすることができたとともに、チーム内でもたくさん交流ができて良かったです。

（クラスⅡ）

私は、球技大会委員のメンバーとして活動しました。今年は新入生歓迎会がなかったため、球技大会で他学年とたくさん交流が出来るように、学年混合のチームを作ることを委員会で話し合いました。球技大会当日は、他学年の方だけではなく、教務の先生や指導者さんとも交流することができ、とても楽しい時間を過ごせました。また、球技大会当日までの活動の中で、教室で準備をしているとクラスメイトが準備を手伝ってくれることが何度もあり、クラスメイトの優しさに触れることが出来ました。学校全員で作り上げた球技大会はとても良い思い出になりました。

（クラスⅠ）

学生生活最後の球技大会でした。実習が続いていたことから、なかなか会うことができていなかったクラスメイトとも、たくさん話し、体を動かし、リフレッシュすることができました！また、他学年とも交流を図ることができたため、みんなの新たな一面を知り、とても楽しかったです！残り少しとなりましたが、クラスメイトや他学年の学生との時間を、大切にしようと思います。

（クラスⅢ）

3年生 統合実習を終えて

1035時間の実習を終えて感じたことは「もっと看護がしたい」でした。領域別実習が始まる前、私にとって実習は看護師になるための「試練」のように感じられました。

しかし、実際に実習が始まってみると、患者さんとの毎日の関わりはとても楽しかったです。毎日、患者さんのために自分は何ができるだろうと一生懸命考えました。そして、実習の中で患者さんから貰った言葉は私の中で一生の宝物です。患者さんから貰ったたくさんの宝物を大切にして、これからも頑張っていきたいと思います。

（クラスⅢ）

12月の統合実習で3年間のすべての実習が終了しました。はじめて実習に行くときや患者さんの受け持ちをさせていただくときは緊張と不安でいっぱいだったことを今でも覚えています。自分一人ではできることは限られていましたが、同じチームの学生や医療者の方と協力することで関わり方を考えることができるようになっていきました。これからは学生ではなく看護師のひとりとして患者さんに関わっていくことになります。これまで関わらせていただいた患者さんから学んだことを忘れず、看護を行っていきたいと思います。

（クラスⅢ）

冬休みのおもいで

学生のページは
わたしたちが作りました!!

大吉

私は友人と日帰りで城崎に行ってきました。旅の醍醐味であるカニのフルコースを旅館で食べました。

私が想像していた旅館はいかにも観光地という雰囲気かなと思っていたのですが、そうではなくて、空間がとても落ち着いていて、ゆっくりと料理を味わうことができました。今までは、旅行といえばできるだけ多く色んな所を巡りたいという考え方だったのですが、今回ゆったりと旅行を楽しむ魅力を知ることができました。今度来るときはぜひ宿泊してみたいです。

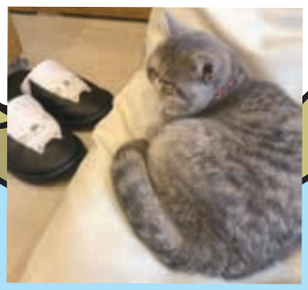
（クラスⅠ）

私は友達と一緒に年越しをしました。みんな幼稚園の頃から15年以上一緒で、気を遣わず何でも話せるとても大切な存在です。色んな話をしてたくさん笑って、2020年いいスタートをきることができました。来年の1月2日には地元である家島の成人式があります。あと1年ありますが、中学時代の先生や同級生のみんなに会えることがもうすでに楽しみです！友人との時間を大切にしながら適度にリフレッシュし、今年もクラスⅠのみんなと共に実習や勉強を頑張っていきたいです。

（クラスⅠ）

私は冬休みに、大阪の心斎橋にあるキャットテイルという猫カフェに行ってきました。

念願の猫カフェに初めて行くことができて、とても楽しかったです。私が行ったこの猫カフェは、猫たちが膝に乗ってくれるカフェで、たくさんの猫たちが膝に乗ってくれてとてもかわいかったです。猫たちとたくさん遊ぶことができ、ふわふわな猫たちに癒されました。冬休みが明けるといよいよ実習が始まります。学びの多い1年にできるように頑張りたいです。（クラスⅡ）



お正月休みに高校の時の友人と久しぶりに遊びました。他県で1人暮らしをしているので滅多に会えませんが、近況報告や新年らしく今年の目標を話し、良いリフレッシュをすることが出来ました。

今年は領域別実習が再開するので気持ちを引き締めて、充実した1年を笑って過ごせるように頑張りたいと思います。

（クラスⅡ）

トレーニングセンター

10月10日(木)日本赤十字社兵庫県支部と姫路赤十字病院社会課の協力のもと、宍粟市生涯学習センター学遊館においてトレーニングセンターを開催しました。クラスⅠは初めてトラウマメイクをして傷病者役に臨みました。クラスⅡは昨年の傷病者役で感じたことを思い出し、皆で話し合いを重ね、また今年は救護者としてこの訓練に向け本を開きながら、何度も練習しました。訓練中はとても緊張をしていましたが、それらの成果を出し切っていました。それぞれの立場で学びの多い訓練だったようです。

(専任教師:内海 尚美)

院外実習の学び

老年看護学実習Ⅰ

介護老人保健施設ゆめさきでは、主に認知症をもつ利用者さんと関わらせていただきました。認知機能の低下から、思いと行動が一致しづらくなり周りから困った人と捉えられてしまう事がありますが、1つ1つの行動の意味を知る事で、困った人ではなく、困っている人であると気付きました。気持ちを理解し、相手のペースに合わせるなど、その人に合った関わりで安心できる環境を整える事が大切であると学びました。

(クラスⅢ)

精神看護学実習

播磨大塩病院での実習では、患者さんと関わる中で疾患からくる精神的な苦痛などを実際にみて、その苦痛を少しでも和らげたいと考えました。そこで私たちは、体操や風船を的に当てるゲームのレクリエーションを計画しました。高齢者の特徴も踏まえ、風船がつかみやすいようにガムテープで持ち手をつくり、車椅子や歩行器を利用されている方も安全に参加できるような隊形を工夫しました。また、的に点数を書くことで夢中になって取り組まれ、高得点をとった際にはみんなで喜ぶなど楽しい時間を過ごせました。レクリエーション中には普段見られない表情も見られ、喜んでくださったことが印象的でした。患者さんの持てる力を見つけ、自己効力感を高める関わりの大切さを学びました。

(クラスⅢ)

統合実習を終えて

統合実習では、多重課題に対応しながら、優先順位を考え、看護を提供できるようにチームで協力することの大切さを学ぶことができました。患者さんにとって必要な看護を考えるにあたって、多職種とも連携を図りながら看護展開することの大切さを学ぶこともできました。

また、リーダー業務、管理ラウンド、部長回診での医師への情報提供など、貴重な経験させて頂く機会ともなりました。

部長回診を通して感じたことは、患者さんに近い立場にある看護師が、患者さんの経過について正確に伝えることで良い医療を受けられることに繋がるため、とても大切であると感じました。上手く伝えられるかどうか不安でしたが、間違わずに申し送ることができました。今回の実習で得た学びを、今後の看護に活かします。

(クラスⅢ)

講師紹介

姫路赤十字病院 検査技術部 検体検査課長
河谷（こうだに） 浩（ひろし）

臨床生化学を担当しております。

人体を構成する物質や代謝、また生理活性物質、ホルモン、遺伝子などを学ぶ臨床生化学は、丸暗記勉強をすると膨大な量となり立塞がってきます。（私自身も、この厳しい恩恵を受けた張本人です）

授業では、私が学生時代に理解に苦しんだ所を、病気や栄養・ダイエットなどの話を混ぜ、興味につなげる講義を心掛けて行っております。他の教科で学んだことを生化学につなげて考えると、勉強も面白くなると思いますよ。

姫路赤十字病院 化学療法センター 看護師長
中村（なかむら） 孝子（たかこ）

病態生理学-4【生体防御機能障害】を担当しています。

とても複雑で難しい分野です。患者さんは難治性で一生付き合っていかなければいけない病気や生命の危機を感じる病気の診断を受け、さまざまな苦痛を伴う症状や治療と向き合うことになります。そのつらさを理解するために想像力を働かせ、患者さんと家族にどのような看護が必要なのか考えてほしいと思います。

第17回
関西看護学生看護研究大会 令和元年10月31日（木）

発表テーマ：根治的治療が行えなかった胃癌患者への看護 ～患者と家族の思いに向き合って～

関西看護学生看護研究大会では、自分の看護研究を発表し、他校の学生の看護研究を聞くことで、同じ看護学生同士、意見交換や学びの共有ができた貴重な機会になりました。

発表に向けて、練習、改善を何度も繰り返し、準備を進めていくことはとても大変でした。

しかし、クラスメイトや先生方が集まり、一緒に改善点を考えてくださったことが嬉しかったです。本番は緊張しましたが、練習を活かすことができて良かったです。

（クラスⅢ）

第55回
✚日本赤十字社医学会総会

令和元年10月17日（木）・18日（金）
会場：広島国際会議場・広島市文化交流会館

発表テーマ：学生の社会人基礎力を高める取り組みー生活全般に活用できる行動指標の検討ー

当校はこれまで、臨地実習の態度評価に「社会人基礎力と行動指標」を取り入れていましたが、今回、実習以外の学生生活全般でも活用できる行動指標を検討しました。ポスター発表では、学生生活に焦点を当てた経緯や教職員の関わりの効果について質問をいただきました。今後は作成した行動指標を活用し、社会人基礎力を意識した学生支援を行っていきたいと思います。

（専任教師：小野 真弓）

第50回
日本看護学会 ―慢性期看護学術集会―

令和元年11月14日（木）・15日（金）
会場：鹿児島市民ホール他

発表テーマ：地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病棟の見学実習における学生の学び

在宅復帰支援の実際を体験し、地域包括ケアシステムについての理解を深めることを目的に、昨年度から多可赤十字病院での見学実習を取り入れました。多職種連携の実際や看護が病院にとどまらず、地域へつながることで、患者・家族が安心して過ごせるなど多くのことを学べたことが分かりました。発表後、実習場所をどのように開拓したのかと質問を受けました。赤十字看護専門学校が実習環境に恵まれていることを改めて実感しました。

（専任教師：藤元 由起子）

歴史シリーズ

明治42(1909)年創立の学校の歴史は今年で110年になります。赤十字関連の史料をはじめとして、悲惨な戦時救護の歴史、本校が誇る7名のF・ナイチンゲール記章受章者関連の史料など、創立以来の数々の歴史を物語る史料が「遺芳の間」にあります。先輩方が大切に残された史料を埋もれ、朽ち果てさせてはいけない、次世代にその歴史を伝えたいと所蔵品のリスト作りを手掛けています。これらの財産は、同窓生みんなのものです。卒業生、学生のみなさん、時間のある時に「遺芳の間」に立ち寄ってください。

（第69回生：樺山 たみ子）

令和元年度

第1回学校関係者評価会議

開催日
令和元年11月21日(木)

元号が令和に替わり初の会議で、保護者の参加は各学年から卒業生へと広がり、話題も多岐に亘りました。会議では、少子超高齢化した我が国の社会保障とりわけ医療の改革が進む中で、看護学生及び新人看護師たちが、情報化と価値観の多様化の波をどう受け止めているか、どう克服しているか（進行形を含む）を保護者の方から伺うことができました。今後も様々な成育史の中で培われてきた学生たちの看護に対するモチベーションを大切に育み見守り開花できる環境作りに微力ながら関わってゆきたいと思いました。

（社会保障論担当非常勤講師：前島 良弘）

高等教育の修学支援新制度の対象校に認定!

本校は、9月20日付けで制度の対象校として認定されました。

※令和2年4月より、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、文部科学大臣（兵庫県知事）により対象校として認定された場合、授業料等の減免や日本学生支援機構の給付型奨学金の支援が行われます。

▶ 詳細については、文部科学省のホームページをご覧ください。
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm

編集後記

今回の発刊で40号となりました。これも毎回原稿を寄せて下さる方々、読者の皆様に支えられ40号を迎えることができたと思っています。この場をお借り致しまして心より御礼申し上げます。今後も学校内外で活き活きと学び、成長する学生の姿や看護基礎教育の現場の様子、講師の方々、職員の取り組みをタイムリーにお伝えできればと考えています。引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

（教務助手：石谷 尚美）

「文化委員による展示ケース」

姫路赤十字看護専門学校 カリオン Vol.40 発行日 2020年(令和2年)2月
発行 姫路赤十字看護専門学校
発行責任者 学校長 佐藤四三
編集責任者 事務部長 安田善彦
〒670-0063 姫路市下手野1-12-2
TEL/FAX 079-299-0052(直通)
http://himeji.jrc.or.jp/school/